

四日市市幼児教育センター

令和6年2月発行

センターだより

は だ け ん

夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども

四日市市幼児教育センターHP

連絡先 059-333-6002

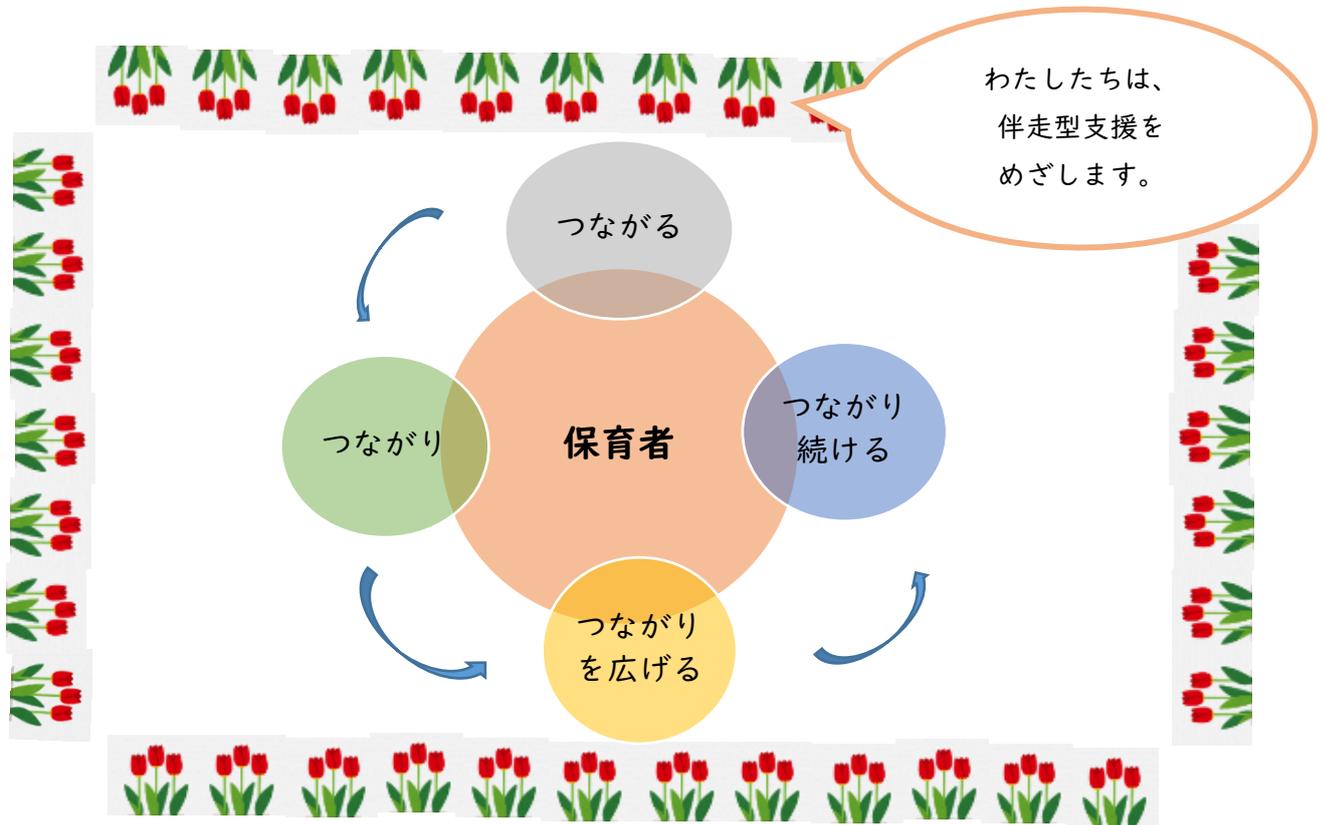


臘梅や河津桜などが咲きほころび、2月とは思えないほど暖かく、春の訪れを感じます。

各就学前施設では、この時期、年度末と新年度に向け、様々な準備や対応など一年で一番、ご多忙な日々をお送りのことかと思います。

そのような中、当幼児教育センターのアドバイザーによる園訪問に際して、ご対応いただき、感謝しております。

アドバイザーの支援は「伴走型支援」です。この「伴走型支援」について、園訪問を受けていただいた各就学前施設の施設長及び、保育者の皆様は、アドバイザーの支援をどのように感じていらっしゃいますか。



アドバイザーは保育者の皆様のつながりたい思いに共感し「つながる」ことを第一に支援します。そして、保育者間の交流が生まれるよう「つながり」を支援します。つながった自信をもち、それぞれの施設や地元など「つながりを広げる」ことを支援します。「つながり続ける」支援を途切れることなく続け、保育者の皆さんの視点に立ち、「つながり直し」や「つながり」を確かめ、時にはつながることを「戻す」など、寄り添った支援を行っていきたく思います。

今年度は、園訪問を3月中旬まで行いますが、幼児教育センターアドバイザーとの「つながり」は、まだ、始まったばかりです。私たちアドバイザーを含め、保育者を「ひとりにさせない四日市市幼児教育センター」として、じっくり、ゆっくりと一步一步を進めていきたく思います。お気軽にご意見、感想をお聞かせください。

ホットニュース

1月31日にZOOMで行われた、こども家庭庁主催の「令和5年度 保育士・保育所支援センター全国連絡会」にて、当幼児教育センターの活動を藤原所長が講演しました。



全国72か所に設置されている保育士・保育所支援センターでは、保育士の人材確保等、保育者支援についてネットワークを作り、取り組んでいこうとしています。

現場目線の取り組みがセンターに訪れるのに大事だと思った。

保育者に寄り添った活動が必要だと思った。

連絡会で講演させていただき、こども家庭庁の担当者はじめ、来年度講演を依頼させていただいて^{しずめ}いる鎮目教育・保育専門官とやり取りしました。そして、連絡会に参加の皆様のご意見や感想を聞かせていただきました。そこで、改めて、幼児教育センターとして、保育者の皆様に共感し、共に歩いていくことができるセンター活動を展開していきたいと思いました。

四日市市幼児教育センター
所長 藤原良美

もうすぐ、届きます。



園内や園外などでの五感を通しての、保育の実践方法の提案です。きっと、できることから始めようと思える本です。

もう、届いています。



「子どもの権利」を身近に考え、子ども一人ひとりを尊重する保育につながるガイドブックのような手に取りやすさです。

子どもではない
そこにいるのは人間である。

「子どもは独自の権利をもっている」という認識が「保育や育児」といつともなく、遠くへ、手届くべきものにしていく。(1999年10月)

藤原 良美